

サーサナ

創刊号 2007年12月1日

創刊の辞

このたび、教心寺寺報（機関紙）として「**サーサナ**」を発行することになりました。

「サーサナ」とは、古代インド、すなわちお釈迦様が在世当時のインドの言葉であるパーリ語で、「教え」「教法」などを意味します。（仏教＝ブツダ・サーサナ）

本紙では、各種のお知らせをはじめ、門徒の皆様知っておいていただきたいことなどを掲載してまいりますので、ぜひ目を通していただくようお願いいたします。当面は年4回の発行を予定しています。

法要のご案内

修正会

修正会（しゅしょうえ）とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

*日時 1月1日（火）午前10時～正午

受付開始は午前9時半

*内容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話、仏典童話ビデオ上映

*持ち物 勤行本「和訳正信偈」・嘆仏偈収録の勤行本（例：「大谷派勤行集」「在家勤行集」など）（お持ちでなければ当日お渡しします）、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

*記念品 鏡餅（小学生以下のお子さんには菓子袋）

*終了後、本堂にて1日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。（ご自宅への訪問はありません）

涅槃会

涅槃会（ねはんえ）とは、開祖・釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。

- *日時 2月15日（金）午前10時～正午
受付開始は午前9時半
- *内容 勤行（和文仏教聖典より）、DVD上映「釈迦涅槃図」
- *持ち物 念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施
- *記念施本 『和文仏教聖典』（仏教伝道協会）
- *終了後、本堂にて15日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。
（ご自宅への訪問はありません）

春彼岸会

彼岸（ひがん）は此岸（しがん）に対することばで、悟りの世界のこと、すなわち浄土の別名です。経典に「西方極楽浄土」とあることから、太陽が真東から昇り真西に沈む春分・秋分の日に、沈む太陽を見ながら浄土に思いをはせたのが由来です。

- *日時 3月17日（月）午前10時～正午
受付開始は午前9時半
- *内容 勤行（観無量寿経訓読、正信偈）、法話
- *持ち物 勤行本「正信偈同朋奉讃」、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施
- *記念施本 『真宗法要聖典』（永田文昌堂）
- *終了後、本堂にて17日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。
（ご自宅への訪問はありません）

月例学習会のご案内

2008年より「釈尊 生涯と教え」をテーマとして、毎月学習会を行います。仏教を基礎から系統的に学んでいくための学習会です。予備知識は必要としませんので、どなたにもご参加いただけます。

- *日時 毎月19日 午後3時～4時半
- *テキスト 「釈尊 生涯と教え」（東本願寺）
- *会費 年間5000円（テキスト代・プリント代含む）
- *事前予約は必要ありません。当日直接お出で下さい。



法務休暇等のお知らせ

12月24～30日、2月16～17日

以上の期日を法務休暇とさせていただきます。ご自宅への月忌参りはありませんので、御理解をたまわりますようお願いいたします。

12月11～13日は、本山にて住職修習を受講するため月忌参りはありません。

12月10日午前8時、12月23日午後5時、および2月15日12時に、本堂にて一座読経（総経）いたしますので、上記期間が命日に当たられるご家族の方は、都合がつく限り、どうぞご参詣下さい。

1月2～3日は、通常どおり月忌参りがあります。お休みではありませんので御注意下さい。

住職交代のお知らせ

現住職の山口章眞が脳梗塞により法務執行が不可能になったため、副住職である山口眞一が住職に就任することになりました。12月11～13日に、本山（真宗本廟＝東本願寺）で修習を受け、13日の任命式に臨みます。

これに伴い、ご門徒の皆様には何かとご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、予めご容赦下さい。

これを機として、「聞法道場としての寺」という原点に立ち返り、自信教人信の実を全うしてまいり所存であります。

なお、住職継承法要を6月に予定しておりますが、詳細が決まり次第お知らせします。

募集

♪オルガニスト（ピアニスト）

電子オルガン（電子ピアノ）の演奏のできる方、法要などでの讃歌の伴奏をお願いします。詳細についてはお問い合わせ下さい。

♪世話人

仏具のお磨き、法要の受付や会場設営、寺報の発送など、さまざまな仕事があります。それらをお手伝いいただける方を募集しています。なるべく多くの方に世話人として登録していただければ、ありがたいことです。実際の仕事は、無理のない範囲で、ご相談のうえ決めさせていただきます。

☆連載法話☆

仏事あれこれ (1) ～お参りは家族揃って～

身近な話題からはじめてみます。私がみなさんと接する機会は、やはり月忌参りが中心ですので、そこで感じたことを少し。

よくありがちですが、その家の人お年寄りだけがいっしょにお参りになり、他の家族は別の部屋でよそ事をしている、というケース。ふだんは仕事で一緒にお参りできないのであれば、なおのこと、仕事が休みの時くらいは、と思うのですが... 仏事は年寄りの仕事で自分には関係ない、という感覚なのではないでしょうか。蓮如上人は「仏法は若き時たしなめ」とおっしゃっています。「としよれば行歩もかなはず、ねぶたくもあるなり」と。うかうかしていると手遅れになりますよ。

お年寄りには、自分がお参りするだけでなく、下の世代に仏法を伝えていく責務があります。これを「法義相続」といいます。財産の相続はいつでもいいから、仏法の相続に心をくだきたいものです。昔は、朝晩に仏前でお参りしないうちはご飯を食べさせない、という親がたくさんいたものですが、子どもの時からの宗教教育は学校ではなく親が責任を持たねばなりません。

門徒会入会のおねがい

真宗大谷派では、「家の宗教から個の自覚の宗教へ」とのスローガンを掲げて、同朋会運動という信仰運動をすすめてきました。いわゆる「檀家」ではなく、あくまでも個々人の主体的な選りとしての信仰を重視する立場です。当寺では、この理念にそくして「教心寺門徒会」を組織することとしました。これに伴い、これまでご縁をいただいたすべての門徒の皆様、会員として登録をお願いするものです。

同封の「入会案内・入会申込書」をご覧の上、来年2月末までに郵送またはお手渡し下さるようお願いいたします。

いただいた入会申込書に基づいて、当寺の門徒名簿を更新いたします。申込書を出されない場合には名簿から削除されますので、ご了承ください。

真宗大谷派 教心寺 (名古屋教区第30組)

編集発行人 釋眞弑 (山口眞一)

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 FAX：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>